

【岡崎好秀先生抄録】

歯科の世界はこんなに面白い!「歯と口の話」

“野生動物は歯を失うと命にかかわる”といわれます。歯科医師の立場からこれは本当なのか?自分の目で確かめたいと思ってきました。数年前、アフリカの大草原をサファリカーで走っていたら、ゾウの下顎骨が落ちていました。臼歯部の凸凹はすり減ってありません。監視員は“このゾウは噛めなくなって死にました”と言いました。まさに、この象は天寿を全うしたのです。

さて現在、日本人の平均寿命は男性約 81 歳・女性は約 87 歳(2020 年)と、65 歳以上人口が、全国民の 21%を超える超高齢社会となっています。しかし人間の社会だけでなく、動物園の動物達も高齢化が進んでいます。一方で獣医師は、かつて見られなかった病気が増えていると言います。それが歯に関するものです。そこで動物を長生きさせるために、大型の肉食獣などは全身麻酔で、歯周病予防のため歯石の除去などを行うこともあります。動物園では昨日まで元気であった動物が、翌朝には死んでいることがあります。野生動物はどれだけ体調が悪くても他の動物に気づかれないようにしています。気づかれると殺されるからです。例えば、ライオンは弱ったシマウマから襲います。動物園の動物も同じ習性があり、最後まで我慢し息絶えたのでしょう。すると獣医師は、早く体調が悪かったことに気がつけば、助けられたのではないかと考えます。

では、体調の悪さはどこを見ればわかるのでしょうか?それは“食欲”です。そもそも、自然界には食物が少ないので、食欲がなければかなり体調が悪いのです。では、食欲がなければ、まずどこを見ますか?そこでまずチェックするのが“口の中”です。そう!歯は“むし歯や歯周病になるため”や“磨くため”に生えてきたわけではありません。歯は獲物を捕らえ、噛むために生えてきたのです。噛むことにまつわる話は、知ってそうで知らないことばかりです。そこには、一生健康で過ごすための知恵がたくさんつまっています。まさに“宝の山”なのです...ということで、本日は「世界で一番聞きたい歯と口の話」について一緒に考えたいと思います。